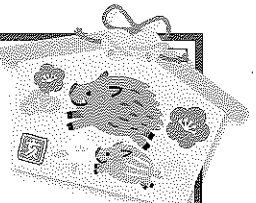




広報

イキシア



2019年1月

79号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと思い集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。

『夜明け前』

理事長 寺田 一郎

昨年『夜明け前』という映画を見る機会がありました(日本精神衛生会・きょうされん共同製作)。呉秀三と無名の精神障害者の一〇〇年、という副題がついています。

呉秀三(東京帝国大学医科大学教授、当時)は『精神病患者私宅監置の実況』をまとめた(一九一八年)。

この映画は、呉秀三の調査に基づいて精神障害者が座敷牢や庭の小屋に閉じ込められていた状況(私宅監置)を紹介しています。

私宅監置から地域福祉へ

呉の報告から百年、二〇一七年十二月に大阪府寝屋川市で住宅の中に設置された小屋でやせ細った女性の遺体が発見されました。約十七年間監禁された女性の体重は十九キログラム、栄養不足による凍死だったといえます。また、二〇一八年四月には兵庫県三田市で障害のある長男を自宅敷地内でプレハブの檻に約二十年間監禁していた事件がありました。いずれも精神障害が疑われ、その両親は「暴れるから監禁した」と供述しているとのこと

とでした。

これは呉秀三の時代と変わらぬ日本の断面を示しています。呉秀三は、調査によって「監護法の定めるところによって私宅監置室に監置され、あるいは神社仏閣で祈禱等により、あるいは民間に流布する療法により処置されている」状況を公にしました。そして「現在の状況と、欧米の文明国とを比べると、実に雲泥の差だと言わざるを得ない」と喝破し「我が国十何万の精神患者は、実にこの病を受けた不幸の他に、この国に生まれた不幸をも二重に背負わされている」と言うべきである(金川英雄現代語訳)という有名な言葉を残しました。

呉は「精神病の治療の道は(中略)病院に収容して十分な治療を加えることである」と提言し精神病院法の成立を推進しました。

第二次世界大戦後に精神衛生法が施行され、やがて精神病院の建設ラッシュを迎え入院患者が急増しました。

この入院治療中心の施策は精神病床の多さ、入院期間の

長さなどが海外からの批判に晒され、宇都宮病院事件も追い打ちをかけ、政府は精神衛生法を改正し、精神保健法が誕生しました。

昭和六十三年に施行された同法によって、精神障害者の社会復帰施設が初めて制度化されましたが、欧米から大きく立ち遅れていた上に他の障害者福祉と比較しても周回遅れの感がありました。

この状況を根底から覆すことになったのが、「障害者自立支援法」(現障害者総合支援法)でした。同法の特徴はまず障害の種別を問わず同じ福祉制度を適用すること、次に施設福祉から地域福祉を明確にしたこと、そして市場原理を導入したことです。

大きく立ち遅れていた精神障害分野から見れば利点が大きかった福祉の新体系ですが、国会審議は難航しました。当時の状況を元厚生労働事務次官の村木厚子さんは、「みんなが満足する答えのない難しい問題で(中略)私の公務員人生の中でも、最も厳しく、かつ、実にいろいろなことを考えさ

せられた経験でした」と述懐しています(『日本型組織の病を考える』角川新書)。

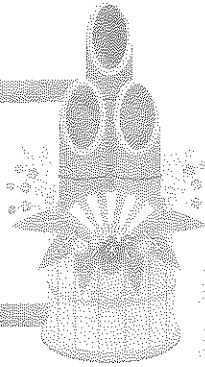
地域福祉の再転換

ここまで関係者なら誰でも知っていることを書き連ねてきましたが、それはこれまでの精神障害者施策を振り返ることがこれからの方向性を見極める指針になると思っています。

民間療法から入院中心とする施策、そして三障害同一の福祉制度となりました。障害者自立支援法の施行から十二年が経ち、今「共生社会の実現」が政策目標とされています。これは高齢者福祉業界からの障害者福祉への参入です。利用者の獲得競争はますます激しくなるものと思われれます。

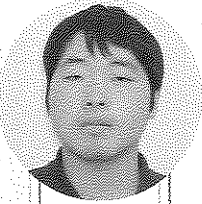
一方で、地域のニーズはあってもサービスが提供できない状況が見られるようになりました。コンビニの開店時間や宅配便の配達時間、郵便局の週末配達等々についての見直しが行われています。いずれも人手不足が原因ですが、さらに政府が進める働き方改革も大きな影響を与えることと思えます。しかし、それは福祉業界での労働の質を上げ労働条件を整え、需給関係を正常に戻すという「夜明け前」の状況なのかも知れません。

挨拶



藤乗 嘉人
長生地域生活支援センター
地域活動支援センターI型

新年明けましておめでとうございます。昨年は福祉の世界に初めて足を踏み入れて、皆様のご指導を賜り、一心不乱に駆け抜けた九ヶ月でした。振り返ってみると目の前のことに追われていた日々でした。今年は計画的に行動し、見直し振り返りをする余裕を持って支援に臨むこと、実践を基にして勉強することを目標にしたいと思いません。今年も早くもので年男です。もう少し落ち着いて時間を有効に使えよう、年齢に見合った生き方をしたいと考えております。本年もどうぞ宜しくお願い致します。



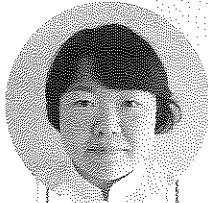
佐々木 芳裕
ファミリーユース共同生活援助

新年あけましておめでとうございます。私は昨年の四月からワーカーホームに入社し、今年で二年目となります。入社して丸一年になる日も近づいてきています。良い意味でも悪い意味でも自分に「慣れ」が出てきているのを感じます。入社当初よりも業務がスムーズに行えるようになった一方で、何度も繰り返ししている業務が雑になってしまっていることに気づく時もあります。常に自分を見つめ直し、姿勢を改めることを忘れないようにしていきたいです。皆さんどうか今年もよろしくお祈り致します。



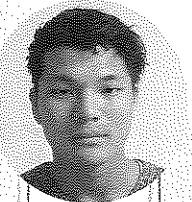
星 紗耶夏
ノバイツ白里く短期入所

新春お喜び申し上げます。正職として入職して九ヶ月、夜勤アルバイトの期間を含めると三年七ヶ月が過ぎました。最初は本当にあつたという間に過ぎ、日々新しいことに出会い勉強の毎日でした。自分のことで精一杯になり周りに目を向けることが出来なかつたと反省しております。年明けから心機一転し、心と時間に余裕を持つて周りに目を向けられるよう努め、同期と助け合いながら頑張っていきたいと思っております。日頃よりご指導頂いている皆様有難うございます。これからもご指導の程宜しくお願い致します。



コニリアーロみゆき
ワークショップ 茂原
就労移行・就労継続支援B型

新年明けましておめでとうございます。四月に入社し、パンの試作や品質維持・売上アップ等すべてにおいて毎日が実験のような日々です。失敗も多々ありますが、率直な意見を言ってくれる同僚やパートさんに囲まれ、お客様からは「優しい味がして好きだよ」「低糖質のパンおいしかったよ」と感想を頂いたことや目を合わせて話してくれる利用者が多くなってきたこと等、元気をもらっています。新年からも、心身ともに健康でいられるようなパンを作っていきたいと思っております。



山本 佑一郎
フジエールく共同生活援助

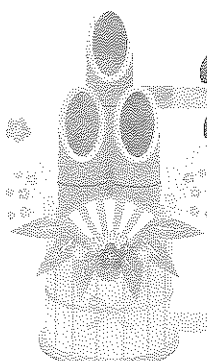
早いもので入職してから八ヶ月経ちました。自分のワーカーとしての道は始まったばかりですが、自分が目標像にしているワーカーに近づいたため、失敗も経験と思いつながら切磋琢磨な毎日です。フジエールはグループホームなので利用者と接する場面も多いです。その分、疑問や悩みもたくさん出てきます。フジエールはその疑問や悩みをすぐに相談でき、自分の成長につながる事ができます。先輩方からご指導頂きながら、今後も日々精進していきますので皆さん宜しくお願い致します。

NEW FACE

謹賀

2019年 新年の

新年



上中野 拓斗
クローナル共同生活援助

新年、明けましておめでとうございます。私は昨年四月に入職し、クローナルで生活支援員を行なっています。今年の抱負は、精神保健福祉士の勉強を始めることです。少しずつ行なっていくと、発合格できる様頑張りたいです。
業務では二年目になるので、気を抜かず再度業務を確認し、少しでもミスがなくなるよう日々頑張っています。毎日、同じことが起こらない中で、自分で自分が追い付かない時があり上手いかわい時もあります。これからは頑張っていきます。



青木 亮
ファミリー共同生活援助

新年あけましておめでとうございます。私は、ファミリーで世話人として働いています。最初は、利用者の名前を覚えるので精一杯でした。一番苦労したのは、Sさんの介助でした。Sさんは、言葉の使い方や接し方で易怒的になりやすく、「どうしたらいいんだろう。」と悩んでいました。先輩職員に教えてもらったり、自分自身も一日、一日の関わり方を考えたりすることでSさんの介助をスムーズにできるようになりました。今年は、様々なことを実践し今後も支援や技術を勉強して行こうと思います。



津嶋 仁奈
ホレフディサービスセンター
生活訓練

新年あけましておめでとうございます。昨年は皆様より大変お世話になりました。大学を卒業してから新社会人となり、環境の変化もありましたが、大きな病気になることもなく、一年を健康無事過ごすことができました。
今年も日々の業務に励みながら精神障害への理解を深め、精進してまいりたいと思います。また、今まで受けたことのない手話検定に今年こそは挑戦し、四級を取得したいと考えております。未だ未熟な点が多々ありますが何事も挑戦する気持ちです。今年も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



木村 隆徳
ワーキングホリデー
就労移行・就労継続支援B型

新年あけましておめでとうございます。昨年の四月にワーナーホームに入社して初めてのお正月を無事迎えることができました。昨年は国家試験合格、専門学校卒業、引越越し、ワーナーホームへの就職、三十代への突入と人生の大きな分岐点となる一年でした。あつという間に過ぎてしまいたい点も充実していました。仕事ではまだまだ至らない点も多く周囲の人々に感謝する日々です。今年度は仕事のみでなくプライベートも充実させ二〇二〇年を迎えたい時に二〇二八年よりいい一年だったと思える一年にしたいと思います。

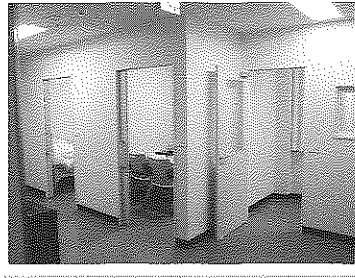


佐原 秀真
エクラス共同生活援助

謹んで新春の祝辞を申し上げます。昨年四月に入職してからあつという間に年越しを迎えました。焦りがちな私にとって「自分のペースを築く」ということが昨年度の私の目標でしたが、色々な方と接していくうちに相手の状況も考えるようになり、それに対し自分はどう動くか試行錯誤していったら、昨年が過ぎ去りました。
昨年は社会人一年目の私に、優しく丁寧に指導くださった先輩職員や利用者の方々に心より感謝申し上げます。今年のはんびりと、四季の訪れを皆様と一緒に感じられるように努めていきます。

2018年度 新入職員

千葉拠点 相談室完成



ワークシヨップ兼取・兼取相談支援センターでは、九月後半から約一カ月をかけて、二階訓練作業室の脇に休憩室と相談室を二室作りました。

工事期間中は、大きな騒音もあり、利用者に不便な思いをさせてしまいましたが、体調を崩される方もなく、無事工事が完了しました。

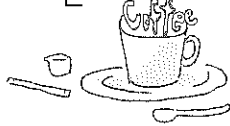
休憩室は、以前廊下にベッドを置きパーテーションで仕切っただけのスペースでしたが、壁と扉ができ、廊下から隔離されたことでより

ゆつくり休めるようになったと思います。

相談室が増えたことで面談時のプライバシー保護や来客応対、事務所や食堂の片隅で行う事もあった、工賃の支払など、部屋の空気を気にしなければならぬ状況が大幅に解消されました。

利用者からも「相談しやすくなった」「新しい方の面談室で面談したい」など好評な声をもらっています。これからも大いに活用し、より話しやすい環境作りができれば良いなと思います。(長妻)

柏拠点食堂 「カフェテリア ココポックル」 完成



柏拠点わたげワークスの旧ベーカリースペースを改修し、待望の「カフェテリアココポックル」が八月に完成しました！昼食時は利用者や職員の食堂として賑わいを見せ、それ以外の時間では、ゆつくり過ごしたり趣味に没頭できる場所として親しまれています。

ココポックルという名称は、「ココポ(心がポカポカする場所)」「ポックル(優しい心を持ち、幸せをもたらす妖精)」を組み合わせた造語です。

柏拠点のみんなの心が暖かくなる場所であり、人と人と



の心の繋がりを築ける場所であり、そして皆をおいしく健康的な食事で支える場所にしたい！そのような想いがこの名称には込められています。

柏拠点にこられた際は、是非お立ち寄りください☆お待ちしております(上野)

カトレア会交流会

法人家族会の「カトレア会」は、家族会設立時に利用者家族が命名しました。「カトレア」は育てるのが難しい花です。手をかけ、丹精こめて育ててきれいな花が咲くのです。家族にとつてカトレアの花は利用者です。育てる家族の思いが「カトレア会」の名を表しています。

さて、恒例の「カトレア会交流会」を今年も九月九日(日)に千葉駅徒歩一分の築地日本海で行い、第六回となりました。

今年も、いつも参加してくださる本部拠点の常連さんと共に千葉拠点のご家族三名、柏拠点のご家族三名も加わりワーナーホームの職員四名と総勢十七名でした。三拠点のご家族が集まったのは初めてのことです。

カトレア会交流会は、実は、すでに亡くなられた利用者の家族、入院中の利用者家族などさまざまの方が集ってくれています。特に参加者の制限がない緩い会です。利用者は統合失調症、発達障害、長期入院をされていた方、一度も入院経験

の無い方などさまざまです。したがって、ご家族といつても経験も年齢もさまざまです。

初めて参加された方は、最初は緊張もあったかとは思いますが、すぐに和やかな雰囲気の中で、席を替えながら、拠点を越えてご家族ならではの思い、苦労、家族としての支援、距離の取り方などいろいろな人と話しをさせていただきました。

大事な「カトレア」にきれいに咲いてもらえるように、これからもご家族と職員が協力しあっていけたらと思います。是非、「カトレア会」にご入会ください。(三好恵)



みんなのまつり ～チャレンジ～ 2018

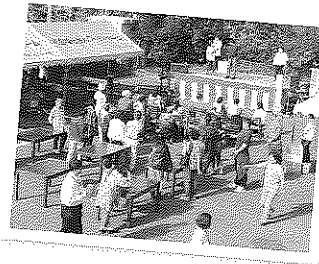
十月二十七日、第二十六回みんなのまつり「チャレンジ」を開催しました。昨年度は台風で中止になった為、二年分の思いが詰まったみんなのまつりとなりました。

今年度は、昨年度延期にできなかったことを考慮し、土曜日に開催することとなりました。当日、朝は雨天で準備に時間が掛かったものの、開催前には雨も上がり、暑いくらいの気温とよい天気の中開催でき、四二七名の方にご来場いただき開催することが出来ました。

会場はホレブ寮からパンプキンハウスまで細草事業所全体を活用し、ホレブ寮前をメイン会場に、模擬店エリア、バザーエリア、チャレンジ企画エリアと各場所でお楽しみいただけような会場としました。各模擬店やステージ発表では、地域の様々な団体や企業の皆様のご協力があり、みんなのまつり全体を盛り上げて頂きました。

また、今年度もボランティアとして、淑徳大学の学生の皆様や大網白里市社会福祉協議会の皆様のご協力を頂けました。職員や利用者だけではなく、地域からのボランティアの皆さんの力もあって無事にみんなのまつりを開催する

事が出来ていることを実感しみんなで作くりあげる「みんなのまつり」などと改めて実感することが出来ました。最後に、今回のみんなのまつりを開催するにあたりご協力いただきました皆さま、皆様にお礼申し上げます。（橋本）



恒例のバザーに今年も皆様からバザー用品のご提供を受ける事ができ、二年ぶりとなりましたがバザーを開催する事ができました。当日は開場時間前からたくさんの方に並んで待っていただきました。開場後も人数制限を行った為、ゆっくりと会場内を見られるようになつていた反面、待ち時間が非常に長くなつてしまった方がおり、ご迷惑をおかけしました。今年は食器類の詰め放題コーナーを設置した事で会計を待つ間などに掘り出し物を探して頂けたと思います。ご来場いただいた方、バザー品の提供を頂いた方に改めてお礼申し上げます。（古市）





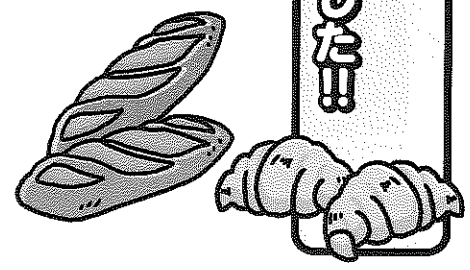
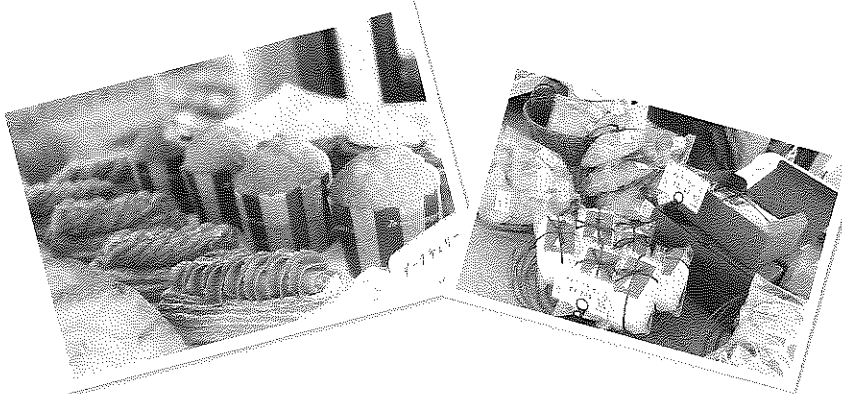
二〇一八年十月から月に一度、はーとふるめっせ県庁店でパンの販売を開始しました。毎月第三金曜日、十一時～十三時に千葉県庁地下二階の売店前で柏店、鎌取店、茂原店が持ち回りで販売に伺います。販売にあたっては、千葉県障害者就業振興センターのみなさまや、障害福祉課のみなさまが宣伝をしてくださり、出張販売を心待ちにしてくださいました。

販売当日は、知っていて来てくださった方も通りすがりに立ち寄ってくださった方も、たくさんの方の職員の方たちがページブルのパンを手に取り、買ってくれました。売れ筋は、意外にもレーズンブレッドにノアレザンやノアフィグと、ちよっとお高め、でもパン好きには好評のライオンナップ。あつという間に売れてしまい、うれしい悲鳴でした。回を重ねるごとにページブルのファンになってくださる方もいて、「チラシを課に貼って待ってましたよ」と声をかけてくださる方もいました。普段私たちは、



障害福祉課や関係部署の方たちのかかわりは多くありますが、県政に関わる他の部署の方たちとお話しする機会はなかなかありません。この販売を通じて、県政に関わるたくさんの方々、ワーカーホームのお届けするパンのファンになってくださり、がんばって働いている障害者の方をより身近な存在として感じてもらえるようになったら、もっともっと誰もが暮らしやすい千葉県になっていくかもしれませんね。

また、今回販売場所を提供くださっているはーとふるめっせ県庁店では、県内様々な事業所の商品が販売されています。県庁を訪れる際には、ぜひ立ち寄ってみてください。(大久保)



わーなー日誌

〈たんぼぼセンター〉



たんぼぼセンターは柏市で地域活動支援センター事業を行っており、二〇〇六年に法人が柏拠点で初めて開始した事業所です。

日中の行き先が欲しい、就労へ向け体調を整えたい、仕事か休みの日に仲間と会いたい等、利用する方の目的により様々な利用の仕方ができる通所先です。

今回は十月に行われた「ハロウィンニティーパーティー」をご紹介します。利用者から実行委員を数名募り、職員と共に企画等の準備を行います。ハロウィンの気分を味わいつつ、仮装などに馴染みのない方にも気軽に参加してもらえる場にできるよう実行委員の利用者と一緒で準備を進めました。利用者同士で衣装の相



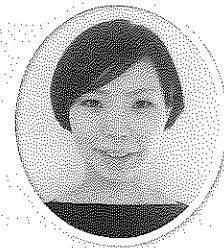
談をする方、何に仮装するかは秘密にしながらも準備できたことを報告する方、飾りつけを考える方等、準備の様子を見て沢山の利用者が集まりました。

当日は午前中にお菓子作りのプログラムでかぼちゃのマフィンを作り、午後のお茶会では、初めてフェイスペイントを体験する方が多く賑わいました。普段とはちよっと違う雰囲気の中、皆でゆったりと楽しい時間を過ごすことができました。

今後も利用者にとって安心して過ごせる心地よい居場所であり、時には一歩先のことへ挑戦する機会を提供できる場を、利用者と共に学びあいますが育んで行きたいと思っています。(土屋)

ワーナーホーム ワーキングママ

～ 新米ママ編 ～



就労移行支援事業
就労継続支援B型事業

ワークショップ 茂原

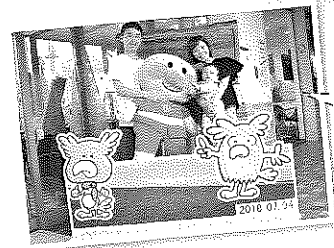
生活支援員

安藤 かおり
(社会福祉士)

●● 1日の流れ 仕事の日 ●●

6:00	起床・自分の支度
6:20	子どもの朝ごはん昼ごはんを作る
6:40	仏様と神様にご飯とお茶をあげる
6:50	子どもの着替えを準備し、起こす
7:00	お父さんにパトタッチ お父さんが子どもの着替えとご飯のお世話をしてくれます
7:15	私出発 車の中で朝ごはんを食べてます
7:50	私出勤
8:00	お父さんが出勤するので子どもはお母さんにパトタッチ 日中は元保育士のお母さんが子守りをしてくれます
17:30	退勤
18:00	帰宅 洗濯物を畳み、子どもの夕飯作り・子どものお風呂の支度
18:45	子どものお風呂をお父さんが入れてくれる間に自分のお風呂 急いで入るので10分以内で上がれます!
19:15	夕食 子どもに食べさせながら自分も食べます
20:00	子どもの歯磨き
20:10	子どもをおんぶして片付け 食器洗いは食洗機におまかせ
20:30	洗濯。乾燥まで洗濯機でするので干す手間なし!!
20:35	掃除しやすいように荷物を片付け、ロボット掃除機のスイッチをオン 寝ている間にリビングの掃除が完了している
20:40	戸締り
20:45	子ども寝かしつけ 子どもが寝たら自分の時間。携帯でお買い物したり、 ネットサーフィンをしています。携帯をいじりながらいつも 寝てしまう
22:00	就寝

夫が休みの日や遅番の日は
分担してやっています。

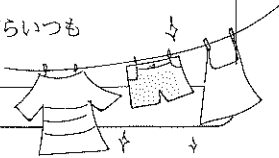


休日は家族と
過ごす時間を
大切にしてい
ます。

息子
ディズニーランド
デビュー



電化製品にも助けて
もらってます。便利!



昨年七月に第一子となる息子が誕生し、産休、育休を経て今年七月に職場復帰しました。我が家は夫の両親が敷地内の別棟に住んでおり、様々な面で生活のサポートをしてくれま
す。現在、息子は保育園には入らず、私が仕事の間はお母さんが見てくれています。他にも夕飯作りから息子の入浴まで様々な面で助けてもらっています。夫

が仕事で家にいないことが多い我が家ですが、家族の協力のおかげで余裕を持った生活を送ることができています。サポートしてくれる家族には本当に感謝しています。来年度からは息子が保育園に入るので、生活リズムの変化に対応できるか不安ですが、甘えられるところは甘えさせてもらい、家族の協力を得ながら乗り越えたいです。

育児休暇を頂いている間には、実家の山形に帰省しながら社会福祉士の試験にも挑戦しました。いくら実家で甘えられるとは言え、生後半年の子どものお世話をしながら勉強するのは大変で、ゆっくり自分の時間を作れるのは夜だけ、子どもが寝てから一時間くらいまで毎日勉強していました。実家に二ヶ月も帰らせてもらったのに試験に合格できなかったら千葉に帰れなくなるという思いもあり終盤は必死の思いで追い込みをかけた。勉強の甲斐あって、試験には無事合格でき、ようやく重圧から解放され今は清々しい気持ちです。

上司や職場の皆さん、利用者さんの理解や協力があり、楽しく仕事が続けられています。これからも周りの方々に甘えさせてもらいながら(笑)、ちゃんと恩返しができるようしっかりと仕事に向き合いたいと思います。

ワナーホームの主な動き

《九月》

・秋レク「富津・The Fun」
／ワークショップしらさと

・千葉拠点防災訓練

・外出プログラム「成田ゆめ牧
場」／長生地域生活支援セ
ンター

・お出掛けツアー「千葉県立
中央博物館・恐竜展」／ホ
レブデイスサービスセンター

・外出レク「千葉動物公園」/
ホレブデイスサービスセンター
自立訓練

《十月》

・ページェル鎌取店しもやぎ
フェスティバル出店／ワーク
ショップ鎌取

・しもやぎフェスティバル／フ
ジエール

・みんなのまつり
・芋掘りツアー／長生地域生
活支援センター

・茶話会外出プログラム「道の
駅ふれあいパークきみつく濃
溝の滝」／長生地域生活支
援センター

・演劇鑑賞会／ホレブデ
イスサービスセンター

《十一月》

・パン教室（ページェル柏にて）
／てくてく

・タッチトラスト／すくすく
てくてく

・千葉県庁パン販売開始／ペ

ジープル三店舗

・誉田小学校バザー出店/
ワークショップ鎌取

・山武地域パラスポーツ教室
／ホレブ寮・ノバハイツ白里

・土気シビックウインドオーケ
ストラ／ホレブ寮・ノバハ
イツ白里

・泊旅行「南国ホテル（館
山）」／フジエール

・秋レク（昭和の森）／ホレブ
寮・ノバハイツ白里

《十二月》

・年末レク／ワークショップしら
さと

・忘年会／ワークショップしら
さと

・クリスマス会
・年末レク／ホレブ寮・ノバハ
イツ白里



・就労者ミーティング（交流
会）／山武プリオ
・そばの会／長生地域生活支
援センター



イキシア入会のお願

イキシア会は利用者とそのご家族及び一般有志からなるワナーホームの支援団体です。活動においてご理解をいただき、ご支援・ご協力を賜ります様宜しくお願い致します。

広報イキシアは年三回（一月・五月・九月）発行されます。

《会費》

賛助会員 三,〇〇〇円（年）
正会員 一〇,〇〇〇円（年）

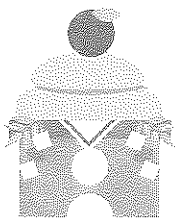
編集後記

新年明けましておめでとう
ございます。

皆さま、平成最後の年末は、
いかがお過ごしになられましたか。実家への帰省や旅行と
楽しんだ方、ゆっくりした方
も多いと思います。私は実家
でゆっくりしました。

今回より、イキシアを担当
することになりました。本年
も「イキシア」をご愛読いた
だける様、頑張ってください
のでよろしくお願い致します。

(A)



発行所 **ワナーホーム
イキシア会**

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎